



標津町

社協だより

発行／4年9月1日 編集発行／標津町社会福祉協議会

今こそ三者の連携を

標津川標津地区水害対応タイムライン検討会議に参加し勉強してきました。今後起きうるだろう、水害災害も含めて大地震や津波等々の災害に対して町民一人ひとりの対応の仕方について特に参考になりました。7月29日の北海道新聞の見出しに、日本・千島海溝地震で道内死者数最大14万人・早期避難9割減災。釧路8万4千人。早期の対応が大切と書かれていました。

行政(北海道並びに各市町村の役場も含む)の科学的データーの分析に基づいた避難計画は参考になり、特に「三者の連携」の大切さを痛感しました。

そこで、標津町社会福祉協議会の願いを再度確認したい。

人は一人では生きていけない。「助け合い・支え合い」が必要であり、同時に「身の丈の支援」が大切と書かれています。

三者の役割の再確認

- 行政(標津町役場)の仕事は……………計画を作る人
- 標津町社会福祉協議会(民生委員児童委員、高齢者福祉相談員、ボランティア等々も含む)の仕事は……………町民に計画を知らせる人
- 町民一人ひとりの仕事は……………計画に従って行動する人

お互いに上記の三者の仕事を理解し町民一人ひとりが行動した時、新聞報道でも早期の対応の大切さを指摘していますが、町民の行動が生死を分けるとのこと。

具体的には、役場の防災無線を信頼し、その指示に従うことを基本とする。災害時に役場は最新のデーターを基にレベル1からの指示を防災無線等で発表。防災無線の指示に従い「自分の命は、自分で守る」が基本であるが、自分で守れない人もいます。お互いに「助け合い・支え合い」の願いを行動で示そう。

そのためにも、日々、町内会の班(組)レベルでの超高齢者家庭、障がい者家庭、独居家庭、子育て家庭等々の様子の確認と具体的な対応の仕方の確認が大切になる。海、山、川、そして大平原に囲まれた自然豊かな地域で、三者の連携がお互いに理解され一人ひとりが行動化している街。住んで良かった街・標津町をみんなでつくろう。



✓ 標津町社会福祉協議会の願い

ひとは、いかなる世(家庭、社会等)でも、一人では生きていけない。そのために「助け合い・支え合い」が必要である。

「助け合い・支え合い」には「助ける人・支える人」と「助けられる人・支えられる人」で成り立ち、「自惚(うぬぼれ)」も「卑屈(ひくつ)」もない人間関係であり、同時に「身の丈の支援」を共通認識し、「お互いさま」「ありがとう」が原点である。



皆様の会費により、標津町社会福祉協議会は運営され、
様々な福祉事業に活用されています。



「標津町社協だより」は赤い羽根共同募金の一部助成を受けて発行しています。

標津町社会福祉協議会については

82-1212 まで



令和
4年度

パークゴルフ 初心者講習会

開催しました！

昨年度と一昨年度の2年間、新型コロナウイルス感染症の影響から7月に延期をして実施したところですが、今年度は、今シーズンにつなげることを目的に6月に開催した4年前の講習会の原点に戻り、6月22(水)に川北パークゴルフ場において、参加者16名及び講師10名(一昨年度より標津町パークゴルフ協会会員に依頼)のご協力のもと行われました。

社協主催としては、昨年度同様今年度初めての事業となりました。最初は気温も低く、若干肌寒く感じましたが、徐々に気温も上がってきて良い感じになりました。用意した冷たい麦茶はプレーした方にとってはちょうど程良い飲み物になったようです。参加された皆さん、お疲れ様でした。



標津町

高齢者軽スポーツ交流会

無事終了しました！

7月26日(火)、標津町総合体育館において、第49回標津町高齢者軽スポーツ交流会が高齢者の参加者76名、来賓を含むスタッフ関係者35名の併せて111名の参加のもと開催されました。



昨年度同様、一つのチームの競技参加者が極端に少なく成立しないことから、赤・青・白・黄の4色チーム対抗の交流会としました。今年度、参加者の負担を減らす工夫として、「幸せの鈴を鳴らせ」と「おはじき送りリレー」の2種目は椅子を使用しましたが、とても好評でした。結果は、交流会も含め5回連続で白チーム(北標津憩の会・茶志骨すずらん会)が優勝しました。真剣な中にも笑いもあり、皆さんの笑顔が印象的でした。来年は節目の50回目となります。一人でも多くの高齢者が参加されることを期待しております。



参加された皆さん、また、運営等のお手伝いをいただいた皆さん、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。



遺族会

8月9日 追悼式

本年は戦後77年目となります。文化ホールにおきまして、町主催により「追悼式」が執り行われ、戦没、殉職された方々のご冥福をお祈りいたしました。

その後、会場を同ホールの和室に移し、標津町遺族会の「総会」を開催しました。総会では、令和3年度の事業・決算・監査報告始め、令和4年度の事業・予算(案)、静霊殿について等が熱心に審議されました。



標津町

共同募金委員会 からのお願い



赤い羽根共同募金寄付金付きグッズ(ご当地ピンバッジ)に取り組んで3年目。また、ピンバッジデザインを募集してから2年目となりました。このピンバッジにつきましては、「社協豆だより」6月号において、ご紹介させていただきましたが、ここで改めてPRさせていただきます。

2022年度版 ご当地ピンバッジ

デザイン
標津中学校3年生
こんの 今野 昊 さん
が考えたものです。

標津町限定
サーモン科学館と
その仲間達2



じよんの町を良くするしくみ。

赤い羽根共同募金

500円以上の寄付に対してバッジ1個と交換となります。
バッジは社協及びサーモンパークに用意しております。

一人でも多くの町民の皆様の募金を、是非、宜しくお願い致します。

献血にご協力をお願いします

令和4年度 第2回 移動献血車「ひまわり号」による献血予定日

日時 10月26日(水曜日) 9:00~16:00

町民の皆様には、日頃より献血推進事業に対しまして、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。さて、令和4年度の第1回目の献血が、去る6月29日(水)と30日(木)の2日間に亘って、6か所において実施されましたが、2日間合わせて73名(内訳200mL~9名、400mL~64名)の方の協力がありました。この場をお借りし、厚くお礼申し上げます。

さて、本年度についてですが、諸般の事情により移動献血車の運行回数が例年より1回少なく年間で4回となります。例年、6月と10月は2回の運行となっておりましたが、今年度の10月は1回の運行となりました。今までにも増してご理解・ご協力を宜しくお願い致します。なお、今年度の400mL献血者の期待人数は、180名となっております。

詳細は、後日、広報折り込みチラシにてお知らせいたします。

令和3年度

* 標津町社会福祉協議会 決算報告 *

	科 目	決算額		科 目	決算額
収入	会費収入	389,300	支出	人件費支出	10,940,643
	寄付金収入	1,189,190		事務費支出	1,354,954
	経常経費補助金収入	11,628,136		事業費支出	2,644,565
	受託金収入	406,467		貸付事業支出	115,000
	貸付事業収入	210,000		助成金支出	180,000
	負担金収入	15,000		負担金支出	181,600
	受取利息配当金収入	576			
	その他の収入	84,855			
	事業活動収入計①	13,923,524		事業活動支出計②	15,416,762
事業活動資金収支差額③＝①－②					△ 1,493,238
収入	施設整備等収入④	0	支出	施設整備等支出⑤	0
施設整備等資金収支差額⑥＝④－⑤					0
収入	その他の活動収入⑦ (積立金取崩し)	3,012,862	支出	その他の活動支出⑧ (積立金利息)	431
その他の活動資金収支差額⑨＝⑦－⑧					3,012,431
予備費支出⑩					0
当期資金収支差額合計⑪＝③＋⑥＋⑨－⑩					1,519,193
前期末支払資金残高 ⑫					657,927
当期末支払資金残高 ⑪＋⑫					2,177,120

発行 標津町社会福祉協議会

標津町北1条西5丁目6番1-2号保健福祉センターひまわり内

*電 話 0153-82-1212 *FAX 0153-82-1530

*メール～syakyou@shibetsutown.jp